

|         |   |
|---------|---|
| 氏名      | 田井 雅子   |
| 学位の種類   | 博士(看護学)   |
| 報告番号    | 甲第 47 号   |
| 学位記番号   | 看博第 8 号   |
| 学位授与年月日 | 平成 26 年 3 月 19 日  |
| 学位授与の要件 | 学位規則第 4 条第 1 項該当  |
| 論文題目    | 統合失調症をもつ人に対するセルフマネジメント促進の看護ケア<br>Nursing care to promote self-management of schizophrenia |
| 主査      | 教授 野嶋 佐由美(高知県立大学)   |
| 論文審査委員  | 副査 教授 藤田 佐和(高知県立大学)   |
|         | 教授 杉原 俊二(高知県立大学)  |
|         | 教授 畦地 博子(高知県立大学)  |

## 論文内容の要旨

統合失調症をもつ人が、その人らしさを保ちながら生活するためには、セルフマネジメントが重要であり、病気の特徴を踏まえたセルフマネジメント促進の看護ケアが必要である。本研究の目的は、統合失調症をもつ人に対して、精神科看護師が実践しているセルフマネジメント促進の看護ケアを明らかにすることである。

9 施設の精神科病院あるいは訪問看護ステーションに勤務する、看護師ならびに精神看護専門看護師 12 名に対して、セルフマネジメントを促進するために実践しているケアについて半構成的面接法を用いてデータ収集を行った。そして 12 名が語った 17 ケースを分析対象とし、質的記述的方法にて分析を行った。

分析の結果、統合失調症をもつ人に対するセルフマネジメント促進の看護ケアとして、5 つのアプローチの方向性が明らかになった。【自我機能を整えるアプローチ】とは、脆弱な自我を保護し、安心感をもたらし、現実検討を高めて自我を強化することで、自我の状態を安定させていくアプローチである。【症状からの自立を促すアプローチ】は、症状を管理することに取り組んだり、うまく管理できている感覚を強め、症状とのつき合いにおける自信を高めるアプローチである。【自己をつかむことを促すアプローチ】は、意思決定への責任を自覚し、自分の意思で歩むことを促し、自己への肯定的な評価を高めるアプローチである。【支援との結びつきを強めるアプローチ】は、周囲の人との程よい関係をもてるようにしたり、当事者が支援の場や人と結びつくことを維持・強化するアプローチである。【その人なりの生活を支えるアプローチ】は、どのような生活を送りたいのかを考え、目標を決め、そこに向かって準備をして、生活を築いていくためのアプローチであり、生活を支えることに関わる共同生活者の関与について調整することも含まれている。また、統合失調症をもつ人に対するセルフマネジメント促進の看護ケアとは、脆弱な自我を保護・強化するための【自我機能を整えるアプローチ】を基盤として、【症状からの自立を促すアプローチ】で症状をマネジメントする力を強化し、【自己をつかむことを促すアプローチ】によって、自分の意思で前に進むことや自信を高めることを目指し、【支援との結びつきを強めるアプローチ】で、支援の連続性を保障して、【その人なりの生活を支えるアプローチ】で、その人なり **の** 生活のあり方をマネジメントする力を高めることであり、各アプローチは相互に関連する。

以上の結果から、統合失調症をもつ人のセルフマネジメントを促進する看護ケアの特徴として、自我機能を整えるケアが基盤として重要であること、セルフマネジメント促進のケアがアイデンティティ形成を促す一助となること、人や場とのつながり方と連続性が重要であることが考えられた。そして、5つのアプローチの方向性の構造を念頭に置いてケアを実践し、当事者の意思の強化や、希望や願望をやる気につなげることが、セルフマネジメント促進の看護実践に重要であることが示唆された。

## 審査結果の要旨

「統合失調症をもつ人に対するセルフマネジメント促進の看護ケア」は、精神看護学の根幹を成す現象を取り上げた優れた研究論文である。精神看護学の誕生以来、統合失調症をもつ人のセルフケア、セルフマネジメントは常に中心的な、看護のテーマである。また、精神看護学の歴史を振り返りつつ、自我論が占める位置の重要性を再確認するに至り、今回の研究でも「セルフ」、自我を支える看護の在り方に注目している。精神を病むがゆえに直面する情緒的、精神的、認知的な課題を抱えている病者に対して、脆弱な自我に寄り添い、自我機能を強化する看護に光を当てた研究論文である。

研究結果から、卓越した看護の技を有する看護師は、統合失調患者のセルフマネジメントを促進する看護として、【その人なりの生活を支えるアプローチ】【症状からの自立を促すアプローチ】【自我機能を整えるアプローチ】【自己をつかむことを促すアプローチ】【支援との結びつきを強めるアプローチ】を病者のおかれている状況や状態に合わせて、これら5つのアプローチを駆使していることを明らかにしている。

本研究の独創的な点は、【自我機能を整えるアプローチ】【自己をつかむことを促すアプローチ】であり、精神を病む病者へのアプローチの根幹をなすアプローチが抽出されたことである。【自我機能を整えるアプローチ】には、〔脆弱な自我境界を守る〕〔他者を信頼する感覚を高める〕〔ストレスを低減して自我を保護する〕〔現実検討を高める〕〔生きる強みを見出し、支える〕を抽出している。看護師は病者の自我機能のレベルに応じてこれらの看護の技を活用していることを明らかにしている。【自己をつかむことを促すアプローチ】では、セルフマネジメントを促進する上で、セルフを自覚し、課題を引き受けて実施していくことで自信を獲得するプロセスが浮かび上がってきている。すなわち、〔自らの意思を自覚させる〕〔一歩ずつ自分の力で前に進ませる〕〔自己に対する自信をつける〕が抽出されている。

本研究では、精神看護師は、病者の自我・セルフを見定め補強しつつ、その人らしさを尊重し、病者自らが症状・生活・社会とのつながりをマネジメントするように働きかけていることを明らかにしていることが独創的な点である。本研究では、統合失調患者への看護に関するデータから結論を導いてはいるが、精神看護学の根幹的かつ臨床課題を取りあげており、臨床実践にそして教育に活用可能な成果となっている。

以上のことから、審査委員会は、本学位申請論文は、学位授与に値する研究論文であり、学位申請者 田井 雅子 氏が、博士(看護学)の学位を授与される資格があるものと認めた。